

生活科部会

高鷹 敦

私たちの目指す低学年実践

生活科の実践を創り出す二つの視点

生活科は20数年前に導入された、まだ「新しい教科」です。導入される前は低学年でも理科や社会科の授業をしていました。「生活科」が導入されるときに心配していたことが今、現実となつていきます。

それはかつて低学年で実践されていた自然認識や社会認識を身に着けさせる実践が影をひそめてしまい、かといって「生活科」そのものも大切にされなくなってしまう、という事態です。「生活科」の教科書が、知的好奇心を満足させることもなく、学びがいのない、何を教えたらいいいのかはつきりとしらない内容だらけなのです。

るか、という視点

現実には、部員数も少なく、部員が毎年低学年を受け持っているわけでもない、活動には困難が伴います。実際、「学期に一度の定例会を」と思っているものの、今年はまだ部会を開けていません。

けれども、教研集会など、機会があるたびに私たちはこれまでの財産に学びながら、実践の事実に即しながら交流し、学びあつてきました。

教科書にとらわれない自由な実践を

低学年の指導は最近ますます困難な状況になっていきます。だからこそ、生活面での指導や保護者との対応などに振り回されることなく、楽しく分かる授業をこそ、学級づくりの柱にすえなければなりませんと思います。生活科部会はそうした授業づくりも目指している部会です。ぜひ、気軽に声をかけてみてください。

(墨田・緑小)

私たち生活科部会では、ただかつての低学年の理科や社会科がそのまま復活すればいいと考えているわけではありません。低学年の時期にふさわしい、楽しく体験しながら、自然や社会の認識を身に着けることができるような実践を目指して実践交流をしています。

こうした実践を創り出していくために、私たちには例えば二つの大きな視点を中心に、理論と実践の蓄積があります。それは、永年、民間教育研究団体の中で集団的に検討され、試されてきたものなのです。

○低学年にふさわしい学習活動は？という視点

○どのような自然や社会にはたらきかけるか・どのような認識を身に着けさせるか